

平成 24 年度議会報告会（第 2 回）記録書 その 2

開催日時：平成 24 年 11 月 16 日（金）9:30～11:30

場 所：南部老人憩の家

来場者数：34 名

配布資料：議会だより(No.187)、アンケート

出席議員：全員（15 名）

1. 開会の言葉（松浦副議長）

2. 報告事項

① 平成 23 年度一般会計決算認定について（梅村議員）

② 平成 23 年度特別・企業会計決算認定について（相原議員）

質疑応答及び意見（報告内容・市議会だよりについて）

意見）議会だよりは広報と同時に配布されるが、今口頭で報告されたことは、市民は知らないもので、今日報告するのであれば、数字とか言われても理解しにくいので、資料を出していただきたい。

答）次回から資料を出していきたい。さくらの家の報告会でも同じような意見があったし、視覚に訴えるようなやり方でどうかという意見もあったので、できるだけ改善を図っていきたい。

問）市民税や固定資産税の前納報奨金制度が昨年から廃止されたが、割引は商取引では当然な特典である。なぜ廃止となったのか、議員はどういう考えで賛成したのか、その当時の状況はどうであったのかを聞きたい。

答）前納報奨金の廃止と滞納した場合の手数料の廃止という市税条例の一部改正案が出て、商業ベースでは前納すると割引になるが、税の問題で言えば、優遇税制は不平等という考えがあり、税の公平性を保つため、私たちは賛成した。

答）当時の状況は、一番端的な要素は国からの補助金が減らされる中、全体の福祉などを切ることなく、一つの苦渋の選択として、前納報奨金をなくすという当局の提案であった。

3. 意見交換「岩倉の未来に、なにを望みますか」

① 職員の対応等について

市民）職員のスキルとか公平な業務の遂行について、要望としてお聞きいただきたい。税務関係で確認の意味で市役所へ行きましたら、職員二人が対応し、小牧税務署まで問合せをしてくれたが、かなり時間がかかった。もう少し個人で勉強して欲しいと思った。もう一つは、後期高齢者医療の保険料について、昨年 3 月、市から改め

て口座引き落としの手続きをとっていただかないと引き落としができない。1回分は口座引き落としが間に合わないから5月の期限までに収めてくださいと言われたので、その手続きをした。ところが7月になって25,900円が2回、引き落としと振り込みで納付されていることに気付き、市に尋ねると、職員はこのようなことは再三あるようなことを平気で言われた。いずれ還付の手続きの書類が来るものと年末まで我慢していたが、書類が来なくて再度年末に催促し手続きがとられ、実際還付を受けたのは2月だった。催促に行ったときにきちんと還付の業務が行われていないように思う。こういうことは日常的に行われているのではないかと思った。

議員) 税務課の職員の対応、スキルの問題、保険税のやり取りの問題であるが、議員にも同じような相談が寄せられている。担当課へきちんと伝える。

後日、担当課から事情を徴したところ、税務課からの回答は、「税は、国税、県税、市税と細かく専門的な知識が必要となるので、市税以外にも研修し、知識の向上に努めていきたい。また、二重納付については、収納消し込み時に判明次第即日処理し、還付書類を翌日に送付している。書類提出後、最短期間で還付するが、遅くても2週間で振り込むこととしています。」とのことでした。

市民窓口課からは、「処理が遅れたことと、職員の不適切な対応をお詫びします。今後は事務の体制を見直し、チェックを強化します。」とのことでした。

市民) 今のスキルの話だが、職員は改善活動の仕方を知らない。日本規格協会の品質管理検定を導入して品質管理を学んでいただきたい。

議員) 議会では人事管理について、一般質問をしており、いろんな形で研修を行うようになっているが、まだ不備な点があるので、意見は担当課に伝える。

後日、担当課に確認した結果、秘書課からの回答は、「日本の企業では、品質管理検定を導入されていますが、市役所という行政サービスを提供するところでは、品質管理という概念はありません。しかし、職員のモチベーションやリーダーシップを引き出す組織体制は必要であると考えています。そのために、職員研修や業務改善運動等の目標管理制度に取り組んでいます。」とのことでした。

市民) 先日のふれ愛まつりで、保健センターの作った体重管理表を見たが、正しいダイエットができないので、正しい管理図をお願いしたい。

議員) 正確な形でボードにするよう保健センターに伝える。

後日、担当課に確認した結果、健康課からの回答は、「ダイエット目的の管理図ではなく、健康管理のための体重の記録表として作成したのですが、目的を十分お伝えるように気を付けます。また、市民の皆様が利用しやすいものを作成するよう努めます。」とのことでした。

② 緊急搬送について

市民) 高齢化が進み、一人暮らしの方が増えている。最近、急に倒れて市民病院に救急車で運ばれ、その後、民生委員が家に行ったら誰もおらず大騒ぎになった事例があった。消防署でいつ誰を搬送したのか、分かっていると思うが、連携の仕方、行政の横の関係が悪いと思う。

議員) 緊急搬送の問題であるが、一人暮らしの方が運ばれるとどこに運ばれたか、分からないということで付近の人たちはものすごく心配する。民生委員などにある程度個人情報になるが、伝えることは重要であるので、きちんと消防署に伝える。

後日、担当課に確認した結果、消防署からの回答は、「緊急通報システムや一人暮らし等の高齢者世帯の情報は、介護福祉課から情報をいただき、指令台に入力し運用しており緊急搬送時は介護福祉課および内容によっては民生委員にも連絡している。このことを署内で再度周知し、介護福祉課とも連携を図っていきます。」とのことでした。

③ 緊急通報システムについて

市民) 一人暮らしで、市の緊急通報システムを使っているが本当に有り難い。ところが今申し込んでも予算がないとの一言で片付けられている。何とかならないものか。

議員) 緊急通報システムの設置の条件として、年齢の他に身体状況の調査をして、その結果で必要かどうかを判断して設置することになる。それが正しいことかどうかのチェックが必要と思う。これを財政問題で職員が言ったとすれば問題である。命を財政と比較することはあり得ないことである。

市民) 議員が行けばダメだとはならないが、市民が行けば予算がありませんと言われる。

議員) 他市の事例も委員会で見てきており、そのやり方を提案しながら、必要な人が使えるシステムにしていきたい。行政に伝える。

後日、担当課に確認した結果、介護福祉課からの回答は、「相談を受けて健康上問題なく、十分自立しているという理由で設置にいたりません、とお話しているケースはありますが、予算がないからという理由でお断りしているケースはありません。」とのことでした。

市民) どの組織にも予算があり、改善活動を行って経費を浮かしプラスアルファをしている。大切なのは費用対効果で、それを考えると今のこともきちんと手当てができると思う。

④ 駐車場について

市民) 南部老人憩の家の駐車場について、軽自動車で6台、普通車で4台が駐車できるが、車利用者が多いため、路上駐車となり苦情がある。隣の広場の一部を利用できれば有り難いが、勝手に利用するわけにはいかないので真剣に取り組んでいただきたい。

市民) 隣の広場は一応公園として利用しているため、駐車場は相成らんと聞いている。ここで奇数月に2回会議をするが、許可をいただいて駐車している。路上に止めると近所迷惑になり、憩の家が怒られるので何とか駐車場を確保して欲しい。

議員) この問題は随分前からあり、隣の広場は南部老人憩の家の附属施設という位置付けなので優先度がある。委員会で南部だけでなく他のふれあい広場でも、その駐車場の管理のあり方、優先度、子どもたちとの関わりを含めて話をしている。今のところは地域の方、管理する方、利用する方の大人としての判断で、利用時間とか形態を考えたい。

⑤ 幸せ度について

市民) 先日、広報紙に岩倉市の幸せ度というのがあり、全国の自治体の中で大体真ん中位と書いてあり、いろいろな項目数を総合すると、中位的中間的な位置にあることは納得できる。一番懸念されるのは、金はない、何も無い、ないない尽くしの上で右肩上がりの政治は非常に困難である。努力をしていただきたいことは、これ以上、下がらないようにして欲しい。新聞などを見て、嫌な思いをするのは職員の不正とかである。

議員) 岩倉の住みよさランキングは全国都市中、476位でほぼ真ん中の位置にあり、財政の健全度では127位にある。他市よりは借金の体質ではないが、今後生産年齢人口が減少し、歳入が減っていく中で、今ある水準をどう維持していくのかを市民、行政と一緒に考えていきたい。

議員) 職員の不祥事が何より嫌と言う意見があったが、議会のチェック機能で厳しくやっていきたい。

⑥ ゆるキャラグランプリについて

市民) ゆるキャラグランプリがあるが、名鉄構内にポスターが貼ってないし、町全体で応援していない。ゆるキャラを応援して地域活性化を図っていけば結構盛り上がるのではないかな。

⑦ 合併にどう取り組むのか

市民) 本日のテーマですが、子々孫々まで岩倉にいてよかったなと思えることである。心配な要因がある。人口が減少しているが、市を拡大することが良いのか悪いのかという議論がある。ある種の硬直状態を脱する一つの手段として、資源、人材等を共有できるエリアを拡大するという大合併を、どう取り組むのか見えてこない。タイアップしていかなければならない市町が近隣にあるので、そうしたところと仲良くするのが基本だが、緊密度を増すためには合併という手段が求められると思う。内外の情勢を踏まえて、岩倉がどう取り組もうとしているのか、今後の活動の中で見えるようにして欲しい。

議員) 数年前、岩倉市、小牧市、扶桑町、大口町、豊山町の2市3町の事務方の研究会で合併について調査研究し、現在は動く情勢にないとの結論であった。今後は、道州制の動きが出てくるので、その中で合併が議論される。人口減少の中で、都市の拡大を目指すのか、現状を維持するのかによって、自治体経営は変わる。第4次総合計画で若い子育て世代の移住・定住の戦略があるが、それも一つの有力な方向性とする。

議員) 岩倉市が合併を目指すなら、小牧市を中心とした2市3町となるだろう。前提として岩倉市が小牧市にとって魅力あるまちにしなければならない。周辺市町と広域連携を進めていくこと、岩倉市が魅力あるまちづくりを進めることが合併の方向性である。

議員) 5万弱の人口がちょうどいい。合併をした市町の人たちの話を聞くと、福祉や教育の後退、給食の問題があると聞いている。岩倉は虐待の問題でも検診でも子どもたちを大切にしている行政が非常に優れている。大きいばかりがいいのではない。市民と議論し、どんなまちがいいのかを進めたい。

⑧ その他

市民) 今までの話を聞いていて、いかに子どもたちを幸せにするのが大事であると思う。今冬もクリスマスに向けてイルミネーションを飾るので、ぜひ見てください。

4. 閉会の言葉 (塚本議長)